

令和2年度自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立郡上特別支援学校 学校番号 112

自己評価

学校教育目標	
(1) 校訓 あかるく (仲間と助け合い、ともに明るく元気に生きる力) なかよく (人、地域や社会、自然と強調できる豊かな心) たくましく (夢や自信をもち、たくましく生き抜く力)	
(2) 学校教育目標 自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。	
① 仲間と助け合い、何事にも明るく元気に取り組める児童生徒 ② 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会の活動に参加できる児童生徒 ③ 夢や希望の実現に向け、たくましく生き抜くことができる児童生徒	

領域	重点項目	具体的取組及び成果と課題	評価
学校経営	◎児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリア形成に基づいた実践力を育む教育の推進 ◎ふるさと教育や地域資源の活用と連動した学校づくりの推進 ◎児童生徒の身を守るための教育の推進と危機管理体制の構築	◎児童生徒の教育的ニーズを明確にし、共有しながら指導の充実を図った。 ◎臨時休業や分散登校中は、課題の郵送やWeb会議システムを利用したオンライン授業を行うなど、様々な工夫のもと児童生徒の学びを止めない取組を行った。また、自宅待機や不登校傾向の児童生徒に対してもオンライン授業を実施した。 ◎小中学部においては、地域の方と米作りの協同作業、牧歌の里やあゆパークへの校外学習、中学部の作業学習で市内の道の駅や銀行などへの製品の納品など、ふるさとの良さを体感できる活動を行った。 ◎高等部においては、地元企業の協力を得ながら現場実習や清掃活動、オンラインを利用した郡上未来塾、先輩と語る会等、地域社会と一体となった学校づくりを推進した。 ◎児童生徒が自分で自分の身を守るできるよう、命を守る訓練、情報モラル教育、性教育を実施した。 ◎新型コロナウイルス感染症に関して、予防法を正しく理解して適切な行動ができるよう、発達段階を踏まえて指導を行った。	A
教科指導	◎児童生徒の発達段階や学習状況を踏まえ、教育的ニーズに応じた指導のねらいと評価の観点を明確にし、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ◎体験的な学習やICT機器を活用して、児童生徒の主体性や、生活に生かせる実践的な力を身に付けられる学習の充実を図る。 ・コミュニケーション能力の育成を図り、児童生徒一人一人の表現を豊かにする指導の充実を図る。	◎個別の教育支援計画と個別の指導計画の担当者が集まって話し合いを設けたことで、各計画のつながりの明確化と内容の充実を図ることができた。 ◎オンライン学習の体制づくり、学習者用タブレットの整備など、児童生徒のICT環境を整えることができた。また、それらを活用した授業実践を通して、効果的な学習の在り方を考えることができた。 ◎重複障がい学級の保健体育の充実、肢体不自由通常学級の学力保障などを踏まえた教育課程を整えることができた。	A

道徳教育	<p>◎経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、道徳的判断や行動ができる力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間や地域の人々との触れ合いを通して、命を大切に作る心、相手を思いやる心、感謝する心を育て、温かい人間関係を醸成する。 ・体験的な活動を通して、自己を見つめる力や社会生活のルールを身に付け、強く明るく生きようとする意欲と態度を育てる。 	<p>○体験的な活動やオンライン学習を通して、身近な人や地域の人と交流するなどの活動を各部で個々の実態に合わせて取り組むことができた。</p>	A
進路指導	<p>◎「地域でたくましく働き続ける人」の育成をめざし、夢や自信をもち主体的に進路を選択する力、社会のニーズに対応した働く力、変化する社会を生き抜く力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期から進路意識を高めるための情報提供（通信、研修会等）を行う。 ・「個別の移行支援計画」を策定し、学校から社会へのスムーズな移行を図るとともに、卒業後のアフターフォローも含めた途切れのない支援を行う。 ・キャリアパスポートを活用し、能力や適性等について理解を深めさせ、自己肯定感と自信を高める進路学習の充実を図る。 ・社会のニーズや変化に応じた作業学習や現場実習等の実施により、社会で働き続ける実践力を育成する。 	<p>○個別の移行支援計画について、卒業後の支援ネットワークに重点を置いた様式に改善することができた。</p> <p>○支援機関との連携を密に図りながら追指導を行い、学校から支援機関へのスムーズな移行を図ることができた。</p> <p>○研修部、教務部と連携して、キャリアパスポートを作成できた。高等部では、キャリアパスポートをツールとして現場実習の評価を作業学習とつなげることができた。</p> <p>○高等部において、コロナ禍においても地域の協力を得て、現場実習を実施し、働く力を育成することができた。</p> <p>○中学部作業学習において、地域の公共施設や事業所へ納品に行き、働く喜びにつなげることができた。</p> <p>●保護者に進路に関する情報を伝えるための研修会、懇談会が新型コロナウイルス感染症予防の対応で実施できなかった。その代替となる進路情報の提供が少なく、保護者アンケートの評価が低下した。</p>	A
総合的な学習（探究）の時間	<p>◎自分の生活、進路に関する学習等に継続して取り組み、よりよく問題を解決する力や態度を育成する。</p>	<p>○他者との関わりを通して自己理解を深め、自分の課題を解決しようとする力を育むことができた。</p> <p>●自ら課題を発見し、課題解決に向けて主体的に取り組める学習内容や方法について、さらなる工夫を取り入れたい。</p>	B
自立活動	<p>◎障がいについての自己理解を深め、自分の力を最大限に発揮しようとする主体的な活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等と関連付け、教育活動全体を通して自立活動の効果的な指導を行う。 	<p>○自立活動の目標立案や評価の機会に授業や支援の在り方を見直し、多面的な捉えにより支援方法を考え、児童生徒の実践力を養う活動ができた。</p>	B
生徒指導	<p>◎児童生徒が夢や目標を描き、将来の生活に向け、自らの可能性を最大限に発揮できる資質や能力の向上を目指す。</p> <p>◎学校生活、社会生活及びふるさと教育を通して、所属感、有用感を育む中で、自信をもって主体的に活動参加できる人材の育成と、自他の生命を尊重することのできる豊かな心の育成を目指す。</p> <p>◎問題行動や諸課題の解決に向けた学校、生徒、保護者、関係諸機関の組織連携の強化と、「自分の命は自分で守る」ことのできる児童生徒の危機管理能力の育成</p>	<p>○進路や将来を見据えた展望を生徒職員、保護者で十分に話し、自ら取り組む課題を明確にした上で進路や将来の自立に向けて一つずつ取り組んだ。</p> <p>○修学旅行、校外学習の取組をとおり、居住地域や自分自身の考え方や良さについて考え、体験的に学びを深めることができた。</p> <p>○自分自身を見つめ直すことや、仲間の良さや他者を認める視点をひびきあい活動やコロナハラスメント防止の取組を行った。</p> <p>○問題行動、いじめ問題の早期対応に重点を置き、迅速な組織連携の中で対応を行ってきた。</p> <p>保護者との情報連携、他機関との速やかな対応連</p>	A

	<p>を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の命を守り切るための防災教育や防災管理を進め、家庭や地域との連携を構築する。 	<p>携につなげることが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 命を守る訓練、防災教育、情報モラル教育をとおり、「自分の身は自分で守る」基本知識や具体的な行動を考え、訓練等の実践につなげる学習を系統的に繰り返し積み上げている。 ●今後もより専門的で実効性のある防災教育の実践につなげたい。 	
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ◎よりよい学校生活を築くため生徒会活動、委員会活動等を通して、仲間とともに協力して活動を展開する中で、自主的、実践的な態度を育てる。 ・部間の交流や学校間、居住地校との交流及び共同学習、地域での活動を通して、社会性や豊かな人間性を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会、委員会が中心となり、自主的で実践的な活動につなげることができた。 ○委員会、学級活動をうまく割り振り、キャリアパスポートの作成やクラスや学校生活の課題に取り組む活動につなげている。 ○校舎間の交流活動の機会を増やし、仲間意識や社会人としてのつながりに目を向けることができた。 	B
研修	<ul style="list-style-type: none"> ◎ICTを活用した効果的な授業づくりに向けた研究を組織的、計画的に行う。 ・学校が抱える課題や職員個々の課題を明確にし、課題解決のための主体的な研修参加を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は各個人の研究としたことで、研究に対する意識を全職員に持たせることができた。 ○明確な授業目標や生徒に対する具体的な支援方法を考える良いきっかけとなった。 ○各個人での研究になり、特定の職員にかかる業務の負担が軽減された。 	B
健康教育	<ul style="list-style-type: none"> ◎進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。 ・感染症について正しく理解し、予防に努める態度を育成する。 ・健康的な生活習慣を身に付けるとともに、日常的な運動を通して体力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症やその予防についての授業を行い、感染予防の方法を指導した。日常生活の中でマスクの着用、手洗いが習慣化した。 ○緊急時の対応を含め、主治医、指導医、関係機関と連携を図り、安全に医療的ケアを進めることができた。 ○小学部、中学部では、散歩や朝活動等で継続的に運動することができた。 ●性に関する指導を含めた保健教育について、小学部から高等部まで系統性のある計画が必要である。 	A

A：達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

学校関係者評価（令和3年2月26日学校評価実施）

意見・要望・評価等

- ・小中学部の米作り体験では、早めに変更案を立て工夫した取り組みができていた。
- ・アンケート項目に、教員の人間性等に関するものがあるが回答が難しい。保護者、生徒への質問とは別に、学校評議員への質問を考えていただきたい。働き方改革を進めるためには、仕事を減らす必要がある。削るところは削る中でも、子どもたちに力を付けられるように工夫する必要がある。
- ・人が成長するためには人との交流が大切である。地域、保護者などとの交流に関する項目について「あてはまらない」がついていない。学校の努力と成果がアンケート結果に表れている。
- ・学校評価アンケートの職員の資質を問う項目について少数派だが否定的な評価があることについては「自己評価、学校関係者評価」にあげたほうがよい。校訓の「あかるく、たのしく、たくましく」と関連性があるアンケート項目を設定することで、目標達成が明確になるのではないかと。
- ・先日、郡上市内で障がいのある方の作品展が開催された。これから社会に出ようとしている学校の方々にも、このようなものに触れ、刺激を受けステップとしてほしい。